

曇鸞浄土論註の研究

——親鸞「凡夫が仏となる」思想の原点

おだに のぶちよ

小谷信千代著 ▼A5判・上製カバー・544頁・本体八、〇〇〇円十税

2020年3月刊行



往生浄土の意義を正しく理解するために、浄土教の原点である『浄土論註』を精緻に読み解き、他力往生の根源的意義を明らかにする。

【目次】

まえがき

第一部 曇鸞『浄土論註』の研究

序 章 往生思想の起原

- 一、原初の出世間道
- 二、如実智見が低位に置かれる出世間道
- 三、不還は生天によって化生となる
- 四、浄土に往生する者は化生となる
- 五、往生と化生

第一章 『浄土論註』を理解するために

- 一、『浄土論』の著者世親
- 二、『論註』の著者曇鸞

第二章 『浄土論』の概要

- 一、願生偈
- 二、論

第三章 曇鸞の還相回向論

- 一、解義分の十節
- 二、第一節 願偈大意
- 三、第二節 起観生信
- 四、第三節 観察体相
- 五、第四節 浄入願心
- 六、第五節 善巧摂化
- 七、第六節 障菩提門
- 八、第七節 順菩提門
- 九、第八節 名義撰対
- 十、第九節 願事成就
- 十一、第十節 利行満足

むすび

第二部 拙著への批評に対する論評

——現世往生説の再検討

はじめに

第一章 鍵主良敬博士の反論に答える

- 一、親鸞の説く「臨終の往生と住正定聚の往生の二義
- 二、住正定聚の往生は真の往生ではない
- 三、往生思想の源流としての出家者の生天思想

——鍵主博士の著書に欠如している文献学的基礎

第二章 長谷正當博士の反論に答える

- 一、道としての往生
- 二、真宗本来の往生の姿
- 三、「現世往生説」の様々な誤解
- 四、現世往生説の間違った根源
- 五、現世往生説に抵触する親鸞の教説

むすび

あとがき／索引

◆著者略歴

一九四四年、兵庫県生まれ。一九六七年、大谷大学文学部卒業。一九七五年、京都大学大学院修士課程修了。一九九八年、大谷大学教授。一九九九年、大谷大学博士（文学）学位取得。現在、大谷大学名誉教授。
主な著書に『法と行の思想としての仏教』（文栄堂）、『俱舍論の原典解明 賢聖品』（共著、法蔵館）、『真宗の往生論——親鸞は「現世往生」を説いたか』（法蔵館）、『虚妄分別とは何か——唯識説における言葉と世界』（法蔵館）、『親鸞の還相回向論』（法蔵館）。

注文書	
(書店印)	
ご担当	様冊
小谷信千代著	
法蔵館	
本体八、〇〇〇円十税	
曇鸞浄土論註の研究	
——親鸞「凡夫が仏となる」思想の原点	
ISBN: 978-4-8318-8778-8 C3015	
お名前	お電話
住所	

ご注文はFAX: 075-371-0458

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
<http://www.hozokan.co.jp> info@hozokan.co.jp

真 宗